

職業実践専門課程の基本情報について

| | | | | | | |
|----------------|--|-----------------------|---|-----------------------|---|----------|
| 学 校 名 | 設置認可年月日 | 校 長 名 | 所 在 地 | | | |
| 大阪教育福祉専門学校 | 昭和51年4月1日 | 三 上 教 道 | 〒544-0023 大阪市生野区林寺2丁目21番13号 (電話) 06-6719-0001 | | | |
| 設 置 者 名 | 設立認可年月日 | 代 表 者 名 | 所 在 地 | | | |
| 学校法人 大阪聖徳学園 | 昭和27年9月26日 | 三 上 教 道 | 〒544-0022 大阪府大阪市生野区舍利寺3-11-24 (電話) 06-6741-3331 | | | |
| 目 的 | 児童福祉法及び社会福祉法の規定に基づき「保育士」と「社会福祉主事資格」を育成するため、指定保育士養成施設指定基準並びに社会福祉主事養成機関等指定規則に基づく養成機関として、専門知識と技能を修得し資質の優れた専門職を養成することを目的とする。 | | | | | |
| 分野 | 課程名 | 学科名 | 修業年限 (昼、夜別) | 全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 | 専門士の付与 | 高度専門士の付与 |
| 教育・社会福祉 | 教育福祉専門課程 | 教育・保育科第一部 こども福祉コース | 2年(昼) | 133単位時間 (又は単位) | 平成6年文部科学省告示第84号 | — |
| 教育課程 | 講義 | 演習 | 実験 | 実習 | 実技 | |
| | 76単位時間 (又は単位) | 62単位時間 (又は単位) | 0単位時間 (又は単位) | 10単位時間 (又は単位) | 1単位時間 (又は単位) | |
| 生徒総定員 | 生徒実員 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | |
| 60人 | 23人 | 14人 | 36人 | 50人 | | |
| 学期制度 | ■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日 | | | 成績評価 | ■成績表(有)無 ■成績評価の基準・方法について 優・良・可・不可、筆記試験等 | |
| 長期休み | ■学年始め：4月1日 ■夏 季：7月25日～8月20日 ■冬 季：12月25日～1月5日 ■学 年 末：3月10日～4月6日 休業期間中に必要に応じ講義・実習等を実施することがある。 | | | 卒業・進級条件 | 学則の教育課程により133単位を修得した者 | |
| 生徒指導 | ■クラス担任制(有)無 ■長期欠席者への指導等の対応 電話や手紙、家庭訪問等 | | | 課外活動 | ■課外活動の種類 発達障害施設等のボランティア ■サークル活動(有)無 | |
| 就職等の状況 | ■主な就職先、業界等 保育所、児童福祉・社会福祉施設 ■就職率※ ¹ 100% ■卒業者に占める就職者の割合 ※ ² 100% ■その他(任意) (平成28年度卒業者に関する平成29年3月時点の情報) | | | 主な資格・検定 | 保育士資格 社会福祉主事資格 | |

| | |
|----------------|--|
| <p>中途退学の現状</p> | <p>■中途退学者3名 ■中退率14%</p> <p>平成28年4月1日在学者 21名（平成27年4月入学者を含む） 平成29年3月31日在学者18名（平成29年3月卒業生を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 経済的事情、健康上</p> <p>■中退防止のための取組 奨学金の推奨</p> |
| <p>ホームページ</p> | <p>URL: http://www.osaka-shotoku.ac.jp</p> |

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

教育課程の編成については、指定保育士養成施設指定基準並びに社会福祉主事養成機関等指定規則等、保育士・社会福祉主事養成として定められた規程に基づき教育課程の編成を行い、保育所・児童福祉・社会福祉施設等との連携を密にし、保育・福祉現場からの意見や要請を教育課程編成に活用するため、実習先もしくは就職等に反映するように取り組む。

そのためには、

- ①保育所・児童福祉・社会福祉施設等に就職している卒業生を招聘し、保育・福祉現場の最新情報をもとに実習指導及び授業に活用
- ②保育所・児童福祉・社会福祉施設の実習における授業科目・実習指導への意見や要望を集約し、企業との連携について教育課程の編成委員会等に活用

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年4月1日現在

| 名 前 | 所 属 |
|---------|---|
| 竹本 榮 | (福) 愛和福祉会 平野愛和学園園長 (教育保育科関係保育関係代表)、大阪市私立保育園連盟副会長、(福) なみはや福祉会理事長 |
| 板谷 知佳子 | (学) 谷岡学園 大阪商業大学附属幼稚園 (教育保育科関係保育関係代表) |
| 村田 智子 | (学) 大阪聖徳学園 勝山愛和香里ヶ丘幼稚園 (教育保育科関係保育関係代表) |
| 水戸井 ゆかり | (福) 雙樹苑 第2善児園園長 (教育保育科関係保育関係代表) |
| 三上 教道 | 学校関係者 |
| 吉本 春樹 | 学校関係者 |
| 関根 聡子 | 学校関係者 |
| 入江 実 | 学校関係者 |
| 日村 義正 | 学校関係者 |
| 中島 仁志 | 学校関係者 |

(開催日時)

第1回 平成28年12月7日 16:30~17:40

第2回 平成29年3月10日 16:30~17:30

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

実習は、「保育実習Ⅰ・Ⅲ」と「社会福祉実習」をもとにして、本校の姉妹保育所(2園)並びに福祉施設(4施設)の他に、大阪府下に公立や社会福祉法人立の保育所・福祉施設・機関実習(相談機関)等と連携している。実習の時期は、春季・夏期・9月・秋季に分けている。また保育所実習の実習段階として「導入実習」(見学・観察)・「基礎実習」(短時間実習)・「総合実習」(長時間実習)を行うように計画をしている。

| 科 目 名 | 科 目 概 要 | 連 携 企 業 等 |
|------------------|--|-----------------|
| 保育実習Ⅰ：保育所 ：施設 | 保育所・福祉施設などでの実習は、その施設における役割や機能を理解し、乳幼児・学童と生活を共にしながら、保育活動及び生活支援や保護者への関わり等について学ぶと共に、発達支援を必要とする児者を含めての対応方法や施設処遇等を含めて福祉を総合的に学習する。 | 公私立の保育所 福祉施設 |
| 保育実習Ⅲ | 児童・社会福祉施設の職員としての役割や機能を理解し、利用者の処遇方法や技術を学ぶ。また、発達障がい施設における諸課題と各福祉法との関 | 福祉施設 |

| | | |
|-----------|---|---------|
| | 連を学ぶと共に、福祉施設の職員としてのあり方を学習する。 | |
| 社会福祉実習：施設 | 社会福祉施設の専門職員としての専門領域に係る内容や実習の意義と職員の役割、福祉の関連する法律と各相談機関との連携について学習する。 | 社会福祉施設 |
| ：機関 | 福祉事務所での実習は、福祉の法律と福祉職員の職務内容や処遇法及び利用者の実態を学ぶと共に、他の相談機関との連携や課題を学習する。 | 公立福祉事務所 |

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

教員の研修等については、本校教職員研修規定に基づき各教員と調整の上、研修計画のもとに研修を受ける機会を提供している。その内容は、教員の担当科目や関連団体を含め研修の成果が教員の資質向上及び、授業内容の改善への礎となるようにしている。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年4月1日現在

| 名 前 | 所 属 |
|--------|--|
| 萩野 寿美 | (学) 大阪聖徳学園 勝山愛和第4幼稚園副園長 (教育保育科関係保育者代表) |
| 恵川 純子 | (福) 聖徳園 生野敬愛保育所前施設長 (教育保育科関係保育者代表) |
| 浦谷 正美 | 元大阪府立高等学校長 (地域の公立高等学校長代表) |
| 石村 万寿美 | 同窓会代表 (第二期生) |
| 古川 啓子 | 保護者代表 (教育保育科2年) |
| 三上 教道 | 学校長 |
| 吉本 春樹 | 副校長 |
| 関根 聡子 | 教育保育科学科長 (教授) |
| 日村 義正 | 学務次長 |
| 松葉 修孝 | 教務主幹 |

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.osaka-shotoku.ac.jp>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.osaka-shotoku.ac.jp>

授業科目等の概要

| (教育福祉専門課程 教育・保育科第一部 こども福祉コース) 平成28年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|------|------|-------|---|---------------|------|-----|----------|----|----------|----|------|----|----|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | 仏教と人間 | 仏教の教祖・釈尊(ブツダ)と浄土真宗の宗祖・親鸞聖人の生涯と教えを学んだ上、それぞれの間観に視点を置き、人間のあり方や現代の人間社会における問題(平和・人権)に何を教えていこうかを考察する。 | 2後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 法学 | 日本国憲法を通して国民権や三権分立等一般社会生活における法律的教養を学んだ上、日本国憲法で保障されている基本的人権の歴史や概要について学ぶ。そして、保育者にとって基本的人権の重要性についてさらなる理解を深めていく。 | 1前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| | | ○ | 書道 | 書写の基礎としての技術は、楷書・行書・平易な草書・カタカナ・ひらがな文章及び文書の書式、複写、聴写を把握し、理論は国語の表記法、硬筆書写に関する知識を身につける。 | | 30 | 2 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 社会学 | 自身の育ってきた家族を振り返り、自分自身の生き方と社会のあり方を関連づけながら家族を相対化して家族についての考察をする。 | 1後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 経済学 | ミクロ経済学を学び理解し、その上でミクロ経済についてミクロ経済の集合体であるマクロ経済を理解する。 | 2後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 心理学 | 保育者を目指すものとして、幼児や保護者の心理を把握し、円滑にコミュニケーションを図ることが大切である。自己や他者の心理及び行動の法則を学ぶ。 | 1前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| | | ○ | 自然と人間 | 身近な自然を見ることや、今日の人間の抱える自然との関わりの中での環境問題・社会事象について、学生相互の意見を交換しながら、授業展開を図る。 | 2前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| | | ○ | 情報処理 | マイクロソフトのWord, Excel, Powerpointを自由に使いこなせるように演習を行う。自由に表現する能力を養うと共に、情報の持つ力を理解できるよう学習する。 | 1前 | 30 | 2 | | ○ | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 英会話 | 国際化社会で必要となる英会話を学ぶために、学生が興味を持ちやすい様々な日常生活から話題を取り上げ、その場面で行われる基本的な日常会話をロールプレイング方式で実践的に学ぶ。 | 1前 | 30 | 2 | | ○ | | ○ | | | ○ | |
| 合計 | | | | 科目 | 単位時間(18単位)270 | | | | | | | | | | |
| 卒業要件及び履修方法 | | | | | | | | 授業期間等 | | | | | | | |
| 133単位(2475時間)を資格取得に係る単位(時間)を履修しなければならない。 | | | | | | | | 1学年の学期区分 | | | | 前・後期 | | | |
| | | | | | | | | 1学期の授業期間 | | | | 15週 | | | |

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

| (教育福祉専門課程 教育・保育科第一部 こども福祉コース) 平成28年度 | | | | | | | | | | | | | | |
|---|------|------|--------|---|---------|---------------|----------|----|----------|------|----|----|----|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業単位数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | 保健体育講義 | 身体の成長・発達を助けるために、また自己の健康管理のために大切な「3つの要素」について習得する。かつ、指導者として理解しておくべき「指導者としての心構え」や「必要なパーソナリティ」を学ぶ。 | 2後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | ○ | | |
| ○ | | | 保健体育実技 | 人として必要な基礎体力を養い、運動の歩く・走る・跳ぶ・転がる・ぶら下がる・登る・まわる・つかむ・投げる・打つ・蹴るといった動きを実際に行うことにより自身の体力向上をはかり、子ども達の指導につながるように体験、確認する。 | 1前 | 30 | 1 | | | ○ | ○ | ○ | | |
| ○ | | | 音楽Ⅰ | 保育者としての必要な音楽の正しい知識を身に付けるため、楽典、ソルフェージュや楽譜の読み方など音楽的基礎技能と基礎知識を習得する。 | 1通 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | ○ | | |
| | ○ | ○ | 音楽Ⅱ | 指定グレード表をもとに、バイエル・ブルグミュラー・ソナチネ等のピアノ教則本で基礎の伴奏法を学び、さらに子どものうたや童謡の弾き歌いを学習し、保育の実践場面に活用する技能を習得する。 | 1・2通 | 120 | 4 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | |
| | | ○ | 保育音楽 | 幼児教育に必要な歌唱力と弾き歌いができる演奏技能を身に付けるとともに、手遊び歌や、簡易伴奏による伴奏方法を学ぶ。 | 2後 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | ○ | | |
| ○ | | | 図画工作 | 子ども達の制作・描画活動の援助指導法としての基礎的技術を習得し、ペーパークラフトやポップアップカード、折り紙ノートの制作を通して子どもの発達に応じた基礎絵画・造形表現の知識と遊びに応用できる技術を学ぶ。 | 1前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | ○ | | |
| 合計 | | | | | 科目 | 単位時間(12単位)270 | | | | | | | | |
| 卒業要件及び履修方法 | | | | | | | 授業期間等 | | | | | | | |
| 133単位i(2475時間)を資格取得に係る単位(時間)を履修しなければならない。 | | | | | | | 1学年の学期区分 | | | 前・後期 | | | | |
| | | | | | | | 1学期の授業期間 | | | 15週 | | | | |

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

| (教育福祉専門課程 教育・保育科第一部 こども福祉コース) 平成28年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|------|------|--------------|--|---------------|------|-----|----------|----|----------|------|----|----|----|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | 幼児体育 | 日常の運動遊びにおける実践指導や運動会の競技や演技の組み立てを企画構成する力が養えるよう実技授業を構成する。 | 2後 | 30 | 2 | | ○ | | ○ | | | | |
| | | ○ | 児童文学 | 様々な時代、国、地域、ジャンルの児童文学作品の姿を学び、また自分たちで児童文学作品創作を試みることで、保育者としての絵本及び児童文学の意義について考察する。 | 2後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 保育原理 | 保育の意義や目的、乳幼児の発達の特徴を学び、その育ちのためにはどのような援助(保育)が必要かを習得し、保育者としての意義や役割を理解し、その専門性を高めていくための方法を学ぶ。 | 1通 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 教育原理 | 近年の教育保育問題を考える時、教育学と教育問題の基礎的・基本的知識をふまえておくことは、保育現場に立つ上で有効である。学生に「教育課題」を投げかけ、考えることにより、教育の原理を把握する。 | 1前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 児童家庭福祉・児童福祉論 | 講義形式で児童と家庭の関係、そして学校や地域社会との関わりが児童の成長の上では欠かせない存在であることへの理解と、その存在が欠けた場合の対応や援助体制について福祉制度を通して考察する。 | 1前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 社会福祉 | 生活実態から「社会福祉の意義」を捉え、社会福祉の概念形成と、社会福祉の各法や行政のしくみを学ぶ。 | 1通 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| 合計 | | | | 科目 | 単位時間(16単位)240 | | | | | | | | | | |
| 卒業要件及び履修方法 | | | | | | | | 授業期間等 | | | | | | | |
| 133単位i(2475時間)を資格取得に係る単位(時間)を履修しなければならない。 | | | | | | | | 1学年の学期区分 | | | 前・後期 | | | | |
| | | | | | | | | 1学期の授業期間 | | | 15週 | | | | |

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

| (教育福祉専門課程 教育・保育科第一部 こども福祉コース) 平成28年度 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------------|------------------|------------------|-------------|---|---------------------------------|------------------|-------------|--------|--------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------------------------------|--|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配 当 年 次 ・ 学 期 | 授 業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企 業 等 と の 連 携 | |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | | |
| ○ | | | 援助技術演習・相談援助 | 相談援助の概要を学び、子どもの問題の原因や対処方法を検討し、他者の気持ち理解と感受性をロールプレイを通して援助の在り方について学習する。 | 2 後 | 15 | 1 | ○ | | | ○ | | | ○ | | |
| ○ | | | 社会的養護 | テキスト実践編内の数ページを2人一組で、学生自らも用紙にまとめ発展させる形式で演習を進める。発表を聞いている学生は、発表者のまとめを自らのノートに書き発表者の説明を聞く。「読み書き聴く」を通して理解させる。 | 1 後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ | |
| ○ | | | 人権保育 | 「人権を大切に育てる心」を育てる保育者には、あらゆる場を通じて人権問題について正しい理解と認識を深めるための研鑽に努めることが求められている。様々な人権問題を取り上げ、それらの問題の特質や共通性を捉えると共に、自らの人権意識の深化・充実を図ろうとする資質を育成する。 | 2 後 | 15 | 1 | ○ | | | ○ | | | | ○ | |
| ○ | | | 発達心理学 | 子ども達の発達を理解するための意義を踏まえ、保育における心理学の活用の仕方を習得していく。さらに様々な子どもの発達に関する問題行動からどのような対処をしていくかを考察する。 | 1 通 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | | ○ | | |
| ○ | | | 教育心理学 | 教育現場での基礎的・基本的な子どもの心の問題を考察するため、学生自ら子ども時代に体験した事実を振り返り、教育心理・保育の心理の概要を把握し、保育現場において子どもへの理解や援助法について学ぶ。 | 1 後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ | |
| ○ | | | 子どもの保健 I | 子どもが健康に発育、成長していくためには、心身の健康増進を図ることが重要である。そのために子どもの身体発育、生理機能や精神運動機能の発育と保健について理解する。また、子どもの精神保健について学びを深める。日ごろから子どもの健康について関心を持たせ、授業内容と関連させながら学習を進める。 | 1 通 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | | | ○ | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|--|----------|---|--------|---------------|---|---|---|---|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| ○ | | 子どもの保健Ⅱ | 子どもの保健Ⅰで学んだ知識をもとに、子どもの健康管理を実践するための知識・技術を学ぶ。健康状態の把握、身体測定 の計測、発育の評価、応急処置の方法など人形を使用しての実習、事例課題の演習をグループワーク中心で取り組む。 | 1 後 | 30 | 1 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | |
| ○ | | 子どもの食と栄養 | 子どもの食と栄養と食生活の特徴と問題、 食育の進め方、アレルギーの知識と対処について学ぶ。 | 1 前 | 30 | 2 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | |
| ○ | | 家庭福祉論 | 保育者や支援者が、ソーシャルワーク的 視点を持って子どもとその課程を支援して いく上で必要とされる関係機関との連携 や社会資源、様々な支援活動について理 解する。 | 1 前 | 30 | 2 | ○ | | ○ | | | | | | | | | | |
| ○ | | 保育総論Ⅰ | 教育的環境のあり方が、乳幼児の心身の 健全な発達を促すことなどの知識や理解 を養い、保育内容が総合的なものであるこ とを学ぶ。また、保育現場において展開さ れる乳幼児の成長発達を理解し、発達段 階に応じた環境構成・教師の援助のあり 方について様々な視点から学ぶ。教育課 程の意義及び、教育課程の編成と指導計 画の作成について学ぶ。 | 1 後 | 30 | 2 | ○ | | ○ | | | | | | | | | | |
| ○ | | 保育総論Ⅱ | 指導計画の意義をふまえ、編成上の留意 事項を把握しながら乳幼児の生活する姿 をどのように捉え、保育内容を如何に展開 していくか、また、環境を構成していくか など、具体的な事例を取り上げグループ討 議や演習により、保育計画の実践等の手 順を習得していく。また、今後の保育内容 のあり方や保育者のあり方を追求してい く。 | 2 後 | 15 | 1 | | ○ | ○ | | | | | | | | | | |
| ○ | | 健康Ⅰ | 幼児のからだ・運動、精神、生活習慣、安 全習慣の発達と活動例による援助の方法 及び、健康な身体と心を育て、自ら健康で 安全な生活をつくりだす力を養い、健康な 生活の送り方を学ぶ。また、心身の発達と 活動例を解説し、他の領域との関連を理 解する。 | 2 後 | 30 | 2 | | ○ | ○ | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | 科目 | 単位時間(24単位)375 | | | | | | | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | | 授業期間等 | |
|--|--|----------|------|
| 133単位(2475時間)を資格取得に係る単位(時間)を履修しなければならない。 | | 1学年の学期区分 | 前・後期 |
| | | 1学期の授業期間 | 15週 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

| (教育福祉専門課程 教育・保育科第一部 こども福祉コース) 平成28年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|------------------|------------------|-------|---|---------------|--------------|-------------|----------|--------|------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験・ 実 習・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | |
| | | ○ | 健康Ⅱ | 子どもの発育発達状況を考慮し、各年齢に応じた運動遊び(ボール・フラフープ・マット・跳び箱・サーキット・ごっこ遊びなど)を紹介し、実践する。また、幼児体育の補助方法も学生同士で実際に実践し様子を感じ取る。 | 1後 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | | | | |
| ○ | | | 人間関係 | 幼児教育の目的と領域の関係性や環境を通しての教育、そして領域『人間関係』と他領域との関係を学ぶ。事例と理論を関係づけることから、幼児期における人との関わりの発達を見つめ、支え、広げ、深める保育者の役割について学ぶ。 | 2前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | |
| ○ | | | 言葉Ⅰ | 「言葉＝言語」の本質と人間にとっての言葉の有用性を考える。言葉獲得の援助の基本を場面(家庭・地域・園など)に応じて把握する。発達段階に応じた言葉獲得の援助のあり方や留意点を理解する。 | 1前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | |
| | | ○ | 言葉Ⅱ | 幼児期に体験すべき豊かな言葉を培うための「お話の世界」を体験し、現場で実践できるよう学習する。また、チームワークを意識しながらの教材作り、劇遊びなどを通してグループワークの中から保育の現場で持つべきコミュニケーション力を培う。 | 1後 | 15 | 1 | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | 表現Ⅰ | 器楽合奏や歌唱による演習を通して音楽的表現力を身につける。各種楽器の特性と奏法を理解する。子どもたちが演奏できる優しいアレンジ法とその指導方法を習得し、保育内容の基本的な考え方について理解する。 | 2前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | |
| 合計 | | | | 科目 | 単位時間(8単位)135 | | | | | | | | | | |
| 卒業要件及び履修方法 | | | | | | | | 授業期間等 | | | | | | | |
| 133単位i(2475時間)を資格取得に係る単位(時間)を履修しなければならない。 | | | | | | | | 1学年の学期区分 | | 前・後期 | | | | | |
| | | | | | | | | 1学期の授業期間 | | 15週 | | | | | |

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

| (教育福祉専門課程 教育・保育科第一部 こども福祉コース) 平成28年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|------|------|-------|---|---------------|------|-----|----------|----|----------|----|----|----|----|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | 表現Ⅱ | 子どもの発達段階の造形活動を習得したうえで幼児画の分析・見方・支援について学ぶ。また、イラストの研究をすると共に、創作絵本の制作に取り組む。 | 2前 | 30 | 2 | | ○ | | ○ | | | | |
| ○ | | | 環境Ⅰ | 幼稚園教育要領や保育所保育指針の『環境』領域をもとに、子ども達の興味関心を育てるために、幼児の発達段階を中心に自然事象・遊具・動植物・社会生活等の様々な観点から実践的学習をする。 | 1前 | 30 | 2 | | ○ | | ○ | | | | |
| | | ○ | 環境Ⅱ | 環境Ⅰで学んだことを踏まえ、水族館や動物園等を実際に見学し、遠足等で引率の際、子ども達が生物や周りの環境に関心を持ち、生きる力を身近に感じていくよう子ども達の発達段階に応じた教育法を保育者の視点から考察する。 | 2後 | 15 | 1 | | ○ | | ○ | ○ | | | |
| ○ | | | 乳児保育Ⅰ | 新生児～2歳児の発育や機能及び、乳児の成長発達の特徴や課題を理解し、未満乳児保育の目標とねらい及び、保育内容における実践等の知識や技術を習得する。 | 1前 | 30 | 2 | | ○ | | ○ | | | | |
| | | ○ | 乳児保育Ⅱ | 乳児期は、人格の基礎を培う大切な時期である。その大切な時期を共に過ごす保育士は、子どもにとって大きな影響を与える存在となる。子ども達が心身ともに健やかに成長していくための援助者として、どのように関わっていけばよいかを学ぶ。 | 2後 | 15 | 1 | | ○ | | ○ | | | | |
| ○ | | | 障害児保育 | 障がい児保育の歴史を学び、障がいの特性に対する理解を深め、アセスメントの方法を学習する。また、障がいに応じた支援のあり方について考察する。 | 1後 | 30 | 2 | | ○ | | ○ | | | | ○ |
| 合計 | | | | 科目 | 単位時間(10単位)150 | | | | | | | | | | |
| 卒業要件及び履修方法 | | | | | | | | 授業期間等 | | | | | | | |
| 133単位(2475時間)を資格取得に係る単位(時間)を履修しなければならない。 | | | | | | | | 1学年の学期区分 | | 前・後期 | | | | | |
| | | | | | | | | 1学期の授業期間 | | 15週 | | | | | |

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

| (教育福祉専門課程 教育・保育科第一部 こども福祉コース) 平成28年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|------|------|---------------|---|---------------|------|-----|----------|----|----------|------|----|----|----|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | 社会的養護内容 | 社会的養護を必要とする児童の入所前から入所・生活・退所し自立への一連のケアのプロセスを考察するとともに、援助のあり方や保育士としての理解を深める。 | 2前 | 30 | 2 | | ○ | | | ○ | | | |
| ○ | | | 援助技術演習・保育相談支援 | 昨今教育問題が求められている社会的背景より教育相談支援の意義・概要を把握し、相談支援の対象となる子どもの理解、相談援助者となる保育者の姿勢、さらには支援方法の具体的展開について学んでいく。そして、様々な事例から支援方法の検討をしていき、学生同士によるロールプレイングを通して援助技術力を身に付ける。 | 2後 | 15 | 1 | | ○ | | | | | ○ | |
| ○ | | | 保育実習Ⅰ | 保育所実習(2単位) 二週間と、施設実習(2単位) 二週間をそれぞれ履修し、保育者としてのあり方を学ぶ。 | 1通2前 | 160 | 4 | | | ○ | | ○ | ○ | | ○ |
| ○ | | | 保育実習指導Ⅰ | 保育所実習+施設実習の各二週間を通して、保育者としての心構えや対象児と直接関わる際の支援と対処法などを学ぶ。 | 1通2前 | 60 | 2 | | ○ | | | ○ | ○ | | |
| | ○ | | 保育実習Ⅱ又はⅢ | 保育実習Ⅱは、保育所実習(2単位) 二週間又は、保育実習Ⅲは、施設実習(2単位) 二週間の何れかを履修し、保育者としての資質を高める。 | 1後 | 80 | 2 | | | ○ | | ○ | ○ | | ○ |
| | ○ | | 保育実習指導Ⅱ又はⅢ | 保育実習指導Ⅱは、保育所実習(2単位) 二週間又は、保育実習指導Ⅲは、施設実習(2単位) 二週間の何れかの実習にかかる事前指導と実習後の事後指導から、対象児への処遇方法や技術等を学ぶ。 | 1後 | 30 | 1 | | ○ | | | ○ | ○ | | |
| 合計 | | | | 科目 | 単位時間(12単位)375 | | | | | | | | | | |
| 卒業要件及び履修方法 | | | | | | | | 授業期間等 | | | | | | | |
| 133単位(2475時間)を資格取得に係る単位(時間)を履修しなければならない。 | | | | | | | | 1学年の学期区分 | | | 前・後期 | | | | |
| | | | | | | | | 1学期の授業期間 | | | 15週 | | | | |

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

| (教育福祉専門課程 教育・保育科第一部 こども福祉コース) 平成28年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------------|------|------|------------|--|---------|------|-----|------|----|----------|----|----|----|----|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | 保育実践演習 | 本校で学んできたこと、教科科目と教職科目などを総括して、五領域「健康・人間関係・言葉・表現・環境」を中心に学習してきた内容を振り返る。また、指導案を作成し、実践することで、実際の保育現場で即実践できる力を身につける。 | 2後 | 30 | 2 | | ○ | | ○ | | ○ | ○ | |
| | | ○ | レクリエーション論 | 人間関係が希薄になる社会の中でレクリエーションの果たす役割と重要性を認識させ、子ども達に楽しみ、かつ効果的なレクリエーションを理論と実践におけるポイントを習得する。 | 2前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | レクリエーション活動 | レクリエーションの意味と必要性を認識し、色々なレクリエーションを体験し、技術・指導法を習得する。 | 2前 | 30 | 2 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 特別教育活動 | 本校系列の幼稚園(6ヶ園)に夏季・冬季・春季・運動会並びに特別養護老人ホーム(3ヶ園)を含む10日間のインターンシップとして子ども達や高齢者より身近に関わる体験学習に参加する。事前指導では、子ども達や高齢者との関わることへの心構え・注意事項を確認し、保育者の役割を認識させる。事後指導では体験学習の内容や体験を通して学んできたことをレポートにまとめる。 | 1・2通 | 30 | 1 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ○ | | | 社会福祉行政論 | 福祉の概念、社会福祉を取り巻く現況、社会福祉制度の改革や、実施体制と役割等について学習する。 | 1後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 社会保障論 | 社会保険制度、労働保険制度、医療保険制度等の概要を学び、現状の理解とともに今後の課題を考える。 | 2前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 公的扶助論 | 公的扶助の歴史的経過と、わが国における生活保護制度の考え方について、単元毎に考察する。 | 2前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|----|--|------------|---|----|---------------|---|---|---|---|---|--|--|---|
| ○ | | 老人福祉論 | 今日の高齢者を取り巻く社会環境及び、その生活実態を明らかにし、その上で高齢者福祉の法律や制度の発展過程を学び、今日到達している介護保険制度の概要や意図する内容と仕組み等について学習する。 | 2通 | 60 | 4 | ○ | | ○ | ○ | | | |
| ○ | | 地域福祉論 | 地域福祉の内容や問題発見と対応の方法を明らかにし、ボランティア活動及び地域における関係法や各種の関連機関との調整などを学ぶ。 | 2後 | 30 | 2 | ○ | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | 社会福祉援助技術論 | 個別援助・集団的援助・地域援助等の技術を学習し、かつ援助過程の重要性や援助者としての対応姿勢のあり方について理解し、援助者自身の自己覚知の意義を学ぶ。 | 1前 | 30 | 2 | ○ | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | 社会福祉援助技術演習 | 教科書を元にして、具体例を学生に提示し発表すると共に、援助の内容について細部に亘る説明をし理解する。 | 2前 | 30 | 2 | | ○ | ○ | | | | ○ |
| ○ | | 福祉事務所運営論 | 福祉事務所の成立から現在までの歴史的展開及び組織・役割・業務内容等について説明し、関連法規や関係機関との連携及び、今日的課題などについて学ぶ。 | 1後 | 30 | 2 | ○ | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | 社会福祉施設経営論 | 社会福祉施設の推移と動向、更に社会福祉施設の役割を学ぶと共に社会福祉法人の意義と役割を考えながら、社会福祉施設の経営管理の構成要素である人事労務管理とこれに呼応する人材育成並びに利用契約制度化における「サービス管理」等を展開する。 | 2通 | 60 | 4 | ○ | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | 介護概論 | 介護保険制度実施にかかる歴史的経過や背景と現状を理解し、介護の取り巻く社会情勢を学び、今後の介護のあり方についての課題を考察する。 | 2通 | 60 | 4 | ○ | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | 医学一般 | 人体の基礎構造と機能及びその病的状態を理解すると共に、代表的疾患について概要を学習する。また、現代の保健医療システム、保健医療対策、医事法制の概要も理解する。 | 2後 | 30 | 2 | ○ | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | 社会福祉現場実習 | 社会福祉施設(2週)及び、機関実習(3週)を履修し、福祉職の職務内容や処遇法・実態を学び、他の機関との連携と福祉の課題を学習する。 | 2前 | 180 | 4 | | | ○ | ○ | | | ○ |
| 合計 | | | | 科目 | 単位時間(39単位)720 | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | | 授業期間等 | |
|--|--|----------|------|
| 133単位(2475時間)を資格取得に係る単位(時間)を履修しなければならない。 | | 1学年の学期区分 | 前・後期 |
| | | 1学期の授業期間 | 15週 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

| (教育福祉専門課程 教育・保育科第一部 こども福祉コース) 平成28年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|------|------|------------|---|---------------|------|-----|----------|----|----------|----|----|----|----|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | 社会福祉現場実習指導 | 社会福祉の専門領域に関する内容や実習の意義と職員の役割及び、福祉の関連法と各機関との連携について学ぶ。また、2年次での社会福祉実習についての知識や技術を習得する。 | 1・2通 | 90 | 2 | ○ | | | ○ | | | | |
| ○ | | | 臨床心理学 | 臨床心理学の主な立場について説明を行うと共に、心理療法や検査法、精神疾患や発達障がいについて学習する。 | 1後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | 手話 | 「手話」を通して、聴覚障がい者の社会的環境・現状を学び、併せて手話技術の習得と理解を深める。 | 1後 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| | | ○ | リハビリテーション論 | リハビリテーションの概念及び、障害のもつ意味と残存機能における能力向上について学習する。 | 2後 | 15 | 1 | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| | | ○ | 社会福祉特修 | <p>絵画造形: 幼児造形の教材研究を通して、保育現場での活用力を身につける。造形の専門的技術と知識を習得する。</p> <p>健康体育: 子どもの健康を課題に幼児教育とは何か学習する。幼児の体育あそび・体操を体験するとともに、保育のイベントにも参加する。</p> <p>子どもの問題行動研究: Ⅲ期にわけて、普通の子どもの発達について、障がいのある子どもや、不登校・非行等の問題行動について学習する。</p> <p>児童養護: 現状の子どもたちの生活環境を理解するとともに、地域社会におけるボランティア活動・発展途上国の子どもたちへの支援活動を実践することにより、体験的理解を深める。</p> | 1・2通 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| 合計 | | | | 科目 | 単位時間(10単位)225 | | | | | | | | | | |
| 卒業要件及び履修方法 | | | | | | | | 授業期間等 | | | | | | | |
| 133単位(2475時間)を資格取得に係る単位(時間)を履修しなければならない。 | | | | | | | | 1学年の学期区分 | | 前・後期 | | | | | |
| | | | | | | | | 1学期の授業期間 | | 15週 | | | | | |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。